

優れた技術・製品の開発に成果をあげ
京都産業の発展に貢献している
中小企業を紹介

京シリーズ の紋

第75回

代表取締役社長
荒川 徹 氏

令和5年度「京都中小企業優秀技術賞」を受賞された企業の概要、受賞の対象となった技術・製品について、代表者にお話を伺います。

株式会社京都紋付

伝統産業の“黒染め”を洋装文化へ 存続の危機に陥った染屋が生み出した起死回生の「深黒技術」

伝統産業の継承と存続を目指した 老舗染屋のノウハウを活かした挑戦

1915年に創業した当社は、黒色専門の染屋として「より黒く、より美しく、色落ちしない黒」を追求。伝統産業でもある黒染め業界で、黒紋付だけを染めてきました。紋付は喪服のイメージが強くありますが、慶事にも着用されるいわば日本の伝統的な正装とも言えます。

当社では黒染めだけを100年以上極め、独自の技術によるどこにも負けない黒さと高い品質があると自信を持っています。しかし、1975年には2兆円もの規模があった着物市場ですが、現在は約2000億円にまで減少しており、**紋付の市場も年間300万反から1000反以下に減っています**。日本の服飾文化の変化により、紋付だけを染めるということが難しくなってきているのです。



日本文化における正装とも言える紋付だが、現在では着用機会はほとんどなくなってしまった。

このような時代の変化に対応できず、多くの染屋が撤退していきました。当社のオフィスがある地域ももとは多くの染屋が軒を連ねていましたが、現在では当社のみとなってしまいました。このまま伝統産業である黒染めを失くしていくわけにはいきません。そこで、伝統産業を継承しつつ、その技術を現代に適合した形でプロダクトするということを検討しました。

黒をより黒く見せる「深黒加工」とは？ 現代の課題解決にも有用な技術

今回賞をいただいた技術「深黒加工」は、**黒をより黒く見せるという染め技術です**。

色とは、光の反射を目の視神経がキャッチすることで得る情報です。光の反射が少なくなると、対象物の色は黒く見えます。そのため、いくら染料を使っても理想の黒になかなか辿り着くことができず、染料では限界があると考え、薬品を使った加工の開発を行いました。

そうして開発された深黒加工は、一旦黒く染めた布を当社で開発した「光を吸収する薬品」で再度加工を施すことにより、目に入る光を少なくするというものです。ただ、薬品を付着させてより黒くするだけでなく、高い堅牢度（色落ちのしにくさ）と撥水性、触り心地のよさといった機能を付加することもできるため、服をより長く着用することが可能になります。

これまでは当社で紋付を染める際は絹が中心だったため、深黒加工も絹に適した手法で染めていました。それを綿や麻といった他の生地にも応用できるようにしたことで、着物以外でも広く使えるようになりました。

一時は紋付の市場が縮小し、当社の売上も低くなっていましたが、この加工技術を開発したことにより、2019年、2020年にはそれまでの3倍の売上を出すことができ、その後も毎年20%ほどの上昇率で推移してきています。

日本から海外へ より広い視野で技術の継承を

現在、当社は紋付の黒染め事業は全体の1%ほどになっており、**主な事業はこの深黒技術を用いたアパレル事業です。**SDGsが注目される昨今、ロスを減らすことやリサイクルは地球環境にも重要なこと。そこで、アパレルブランドや百貨店などとパートナー提携をし、売れ残ってしまった在庫衣料を黒染めしてデザインを変えて販売できるようにしたり、汚れてしまった古着を黒染めして売り直したりできるようにしました。

特に、最初からリサイクルができるようなデザインで衣料品を販売し、着られなくなったら黒染めができるよう道筋を作る方法に注力。これは、商品に値札などと一緒に下げ札をあらかじめ付けておき、商品を黒染めしたときのイメージ図の共有と黒染めの受注がスマートフォンでできるように案内しています。

このシステムをアパレル企業などに無料提供し、当社にとっては宣伝と受注のわずらわしさを簡略化しつつ、企業には売り上げの一部をキャッシュバックするという理想的な形を作ることができました。今後は海外への展開も検討しており、中国やニューヨークで成功事例を生み出せたらヨーロッパへの展開も可能と考えています。

海外への展開は、黒染め技術の継承という点においても重要だと感じています。国内ではほとんどが撤退してしまった染め技術ですが、多くのアパレル企業の工場がある海外ではまだ服の染め技術自体は残っている地域が多いです。そこに当社の開発した染料と薬品を送り、現地の工場黒染め加工をしてもらえば、現地で集めた衣類をその場で黒染めでき、二酸化炭素の削減や現地雇用の拡充が期待できます。当社のノウハウ自体は染料と薬品に詰まっているので、深黒加工には難しい技術は必要ありません。

このビジネススキームをより広く使っていただき、廃棄を減らす、あるいは廃棄をしない前提のモノづくり、つまりサーキュラーデザインができればと思います。また、一般の方にとっても黒染めがより手軽にファッションを楽しむ手段の一つであると捉えていただけるように活動していきたいです。



加工前（画像左）と加工後（右）の違いは一目瞭然で撥水効果も付く。

技術者からひとこと



染色事業部 課長 小佐見 託史 氏

「お気に入りだけど着られなくなってしまった」「汚れが気になっていった服を黒く染めることでもう一度着られてうれしい」というお声をいただくことがあり、私たちにとっても励みになっています。ずっと着ていたものが加工一つで違った姿になる深黒加工は、お気に入りの服をより長く着ることができると思っています。これからもお客様の服を一着一着手作業で加工してまいります。

Company Data

- 代表取締役社長 / 荒川 徹
- 所在地 / 京都市中京区壬生松原町51-1
- 電話番号 / 075-315-2961
- 創業・設立 / 1915(大正4)年・1969(昭和44)年1月
- 事業内容 / 染色業
- ホームページ / <http://www.kmontsuki.co.jp/>



●お問い合わせ先 / (公財) 京都産業 21 京都経済センター支所 人財・技術振興担当 TEL : 075-708-3066 E-mail : kensho@ki21.jp



京都中小企業技術大賞 (現：京都中小企業技術顕彰)

京都中小企業技術大賞（現：京都中小企業技術顕彰）は独創性のある優秀な新製品・新技術の開発に成果を上げ、京都産業に貢献した府内の中小企業及びその技術者の功績を讃える制度で京都府と共同主催しています。平成5年度から令和5年度の31回で延べ208社、738名を表彰。

令和5年度受賞企業一覧

技術大賞	カンケンテクノ株式会社
優秀技術賞 (伝統産業部門を除き 50音順)	有限会社岩本製作所 株式会社オービット 株式会社京都紋付 株式会社光伸舎 中沼アートスクリーン株式会社
※伝統産業部門	亀屋良長株式会社※

